

[様式 9 - 1]

福祉サービス等第三者評価結果

総合評価

受診施設名	千代川保育園	施設種別	保育所 (旧体系：)
評価機関名	一般社団法人 京都府保育協会		

平成 26 年 2 月 3 日

総 評	千代川保育園は、亀岡市の北西部に位置し、田園など豊かな自然に囲まれています。新興住宅地が近く、また、JR千代川駅にも近く、通勤などの利便性から入園を希望する方も多くいます。 「児童福祉法及び児童憲章に則り、亀岡市・地域社会及び保護者の信託を受けて、児童に快適な園生活を保障できるよう環境の整備に努め、心身の健全な発達を促して、児童福祉の増進に寄与し、あわせて地域における家庭援助を行う」を保育方針としています。 一時預り、卒園児の学童保育、休日保育、分園による 22 時までの延長保育、病児病後児保育（体調不良型）、子育て広場、子育てサポートなどの多くの事業を行っています。 情操を育む活動として、絵画遊び、陶芸遊び、体操遊び、ベル遊び、英語遊び、音感教育、楽器遊びなど、外来講師による指導や鼓隊ドリル演奏やリトミック活動を積極的に行っています。また、知的活動のため姉妹園にコンピューター保育室を設置しています。 日々の保育において児童を心身共に健やかに育み、知的な活動のなかで情操を豊かにし、感動する心を培うとともに、児童が集団生活をとおして、人としての尊い能力がそなわるよう、保育の環境を整備し、児童みずからが、社会人として自立し、自信と責任に目覚める保育を推進しています。
特に良かった点(※)	・地域の運動会、自治会行事に職員が積極的に参加しています。老人ホームや介護老人保健施設へ訪問するなど、地域とのかかわりを大切にしています。 ・年間栽培活動計画を立て、さつまいも、じゃがいも、ほうれん草、ブロッコリー、大根、ニラなどの食物、ひまわり、コスモス、ペゴニア、パンジーなどの花を土作りから栽培に取り組んでいます。また、調理活動として、ドーナツ作りやクッキー作りなどがあります。子どもたちの食や自然への関心を高める努力をしています。 ・「日々の保育活動」「給食」「職員対応」「長時間・延長保育」についてのアンケート調査の実施や、図書の貸し出し、食育だより、クラスだよりなどがあり、保護者のコミュニケーションに努めています。
特に改善が望まれる点(※)	・職員の研修計画について、質の向上のため、職員の研修参加には積極的に取り組んでいますが、個別の研修計画を策定するとなお良いでしょう。 ・研修内容についての報告会を設けていますが、研修計画を評価見直す取り組みがあれば良いでしょう。 ・評価結果の分析について、事前に園内にサービス評価委員会を設置し、職員の参画のもと自己評価に取り組んでいます。今後、評価結果の分析や検討を行うとなお良いでしょう。

※それぞれ内容を 3 点程度に絞って掲載しています。評価項目毎のコメントは「評価結果対比シート」の「自由記述欄」に記載しています。

京都府福祉サービス等第三者評価事業

[様式9-2]

【保育所版】 評価結果対比シート

受診施設名	千代川保育園
施設種別	保育所
評価機関名	一般社団法人京都府保育協会
訪問調査日	平成26年2月3日

保育所評価基準 対比シート

I 福祉サービスの基本方針と組織

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
I-1 保育の理念・基本方針・目標	I-1-（1） 保育の理念、基本方針・目標が確立されている。	① 保育の理念が明文化されている。	A	A
		② 保育の理念に基づく・基本方針・保育目標が明文化されている。	A	A
	I-1-（2） 保育の理念、基本方針・目標が周知されている。	① 保育理念・保育方針・保育目標が職員に周知されている。	A	A
		② 保育理念・保育方針・保育目標が利用者等に周知されている。	A	A
I-2 計画の策定	I-2-（1） 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。	① 中・長期計画が策定されている。（非該当）		
	I-2-（2） 保育の計画が適切に策定されている。	① 保育課程が保育理念・保育方針・保育目標に基づき、さらに地域の実態や保護者の意向等を考慮して編成されている。	A	A
		② 保育課程と年間指導計画、短期指導計画との整合性が図られている。	A	A
		③ 指導計画の評価を定期的に行い、その結果に基づき改定されている。	B	A
		④ 保育課程の編成や指導計画の作成が組織的に行われている。	B	A
		⑤ 保育課程・指導計画が職員や利用者等に周知されている。	B	A
I-3 管理者の責任とリーダーシップ	I-3-（1） 管理者の責任が明確にされている。	① 管理者自らの役割と責任を職員に対して表明されている。	B	A
		② 遵守すべき法令等を正しく理解するための取り組みを行っている。	A	A
	I-3-（2） 管理者のリーダーシップが発揮されている。	① 質の向上に意欲を持ちその取り組みに指導力を発揮している。	A	A
		② 経営や業務の効率化と改善に向けた取り組みに指導力を発揮している。	B	A

[自由記述欄]

- ・ 保育理念・園目標は、パンフレットやホームページなどを利用して広く公開しています。
- ・ 保育理念や保育方針・保育目標を園のしおりや業務マニュアルに記載し、職員や利用者への周知を図っています。また、パンフレットや園だよりを亀岡市の保育係窓口に置いています。
- ・ 保育課程を編成するにあたって、アンケート調査の実施やクラス懇談会での意見を取り入れるようにしています。また、毎月の職員会議で同一法人内の大井保育園の職員とも話し合い、保育の質の向上に努めています。
- ・ 保育課程に基づく保育内容の写真を掲示しています。
- ・ 園長は、管理者として積極的に施設長研修等、外部研修に参加し、保育の動向や法令等の把握に努め、また、職員会議で自分の考え、学んだことを職員に伝え、共有化を図っています。園長がリーダーシップを発揮し、職員にとって働きやすい職場づくりに努めています。
- ・ 第三者評価を積極的に受診し、保育内容に関する保護者アンケート調査を実施し、保育の質の向上に努めています。
- ・ パソコンを多数購入し、保育業務支援ソフトを活用するなど、業務の効率化に取り組んでいます。

Ⅱ 組織の運営管理

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
Ⅱ－１ 経営状況の把握	Ⅱ－１－（１） 経営環境の変化等に適切に対応している。	① 事業経営をとりまく環境が的確に把握されている。	A	A
Ⅱ－２ 人材の確保・養成	Ⅱ－２－（１） 人事管理の体制が整備されている。	① 必要な人材に関する具体的なプランが確立している。	B	A
		① 職員の就業状況や意向を把握し必要があれば改善する仕組みが構築されている。	B	A
	Ⅱ－２－（２） 職員の就業状況に配慮がなされている。	② 職員の福利厚生や健康の維持に積極的に取り組んでいる。	B	A
		① 職員の教育・研修に関する基本姿勢が明示されている。	A	A
		② 個別の職員に対して組織としての教育・研修計画が策定され計画に基づいて具体的な取り組みが行われている。	B	B
		③ 定期的に個別の教育・研修計画の評価・見直しを行っている。	B	B
	Ⅱ－２－（３） 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。	① 実習生の受け入れに対する基本的な姿勢を明確にし体制を整備している。	B	A
		② 実習生の育成について積極的な取り組みを行っている。	A	A
Ⅱ－３ 地域との交流と連携	Ⅱ－３－（１） 地域との関係が適切に確保されている。	① 利用者と地域とのかかわりを大切にしている。	A	A
		② 事業所が有する機能を地域に還元している。	A	A
		③ ボランティア受け入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	B	A
	Ⅱ－３－（２） 関係機関との連携が確保されている。	① 必要な社会資源を明確にしている。	A	A

[自由記述欄]

・園長は、管理職の研修や業界誌等から、保育制度問題や子育て環境の情報を集め、事業経営をとりまく環境を把握しています。

・人材プランを事業計画に記載しています。また、有給休暇取得状況のデータを分析し、就業状況の改善に努めています。

・京都府民間社会福祉施設職員共済会のスポーツ大会に参加したり、職員の福利厚生に努めています。

・事業計画に職種別に研修に対する基本姿勢（考え方、内容、方法）を記載しています。研修レポートを作成し、毎月１回の報告会をしています。基本姿勢に沿った職員の個別研修計画を策定すると良いでしょう。また、計画を評価見直す取り組みがあれば良いでしょう。

・実習生の受け入れについて、意義方針、手順を業務マニュアルに記載しています。昨年は１０人以上の受入実績があり、積極的に実習生を受け入れ、育成に取り組んでいます。

・亀岡市地域子育て支援センター事業、地域の運動会、自治会行事に職員が積極的に参加しています。また、亀岡市の子育て情報誌に、保育園が行っている子育て支援事業やサポートセンター事業を掲載し、地域との関係を大切にし、保育所機能を地域に還元しています。

・ボランティアの受け入れについて、意義方針、手順を業務マニュアルに記載しています。南丹高校、小学校の街探検、中学校の職場体験、京都市小学校のチャレンジ体験などがあります。

Ⅲ 適切な福祉サービスの実施

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
Ⅲ－１ 利用者本位の福祉サービス	Ⅲ－１－（１） 利用者を尊重する姿勢が明示されている。	① 利用者のプライバシー保護に関する規程・マニュアル等を整備している。	A	A
	Ⅲ－１－（２） 利用者が意見等を述べやすい体制が確保されている。	① 苦情解決の仕組みが確立され十分に周知・機能している。	A	A
		② 利用者からの意見等に対して迅速に対応している。	B	A
Ⅲ－２ サービスの質の確保	Ⅲ－２－（１） 質の向上に向けた取り組みが組織的に行われている。	① 定期的に第三者評価を受診し、事業内容の改善に活かしている。	B	B
		② 定期的に自己評価を行い、その結果と課題を職員間で共有し、改善に向けた取り組みを行っている。	B	B
	Ⅲ－２－（２） サービス実施の記録が適切に行われている。	① 入園面接・健康診断など定められた手順に従ってアセスメントを行っている	B	A
		② 利用者に関する記録の管理体制が確立している。	A	A
		③ 利用者の状況等に関する情報を職員間で共有化している。	A	A
Ⅲ－３ サービスの開始・継続	Ⅲ－３－（１） サービス提供の開始が適切に行われている。	① 利用希望者に対してサービス選択に必要な情報を提供している。	A	A
		② 保育の開始にあたり利用者等に説明し同意を得ている。	A	A
	Ⅲ－３－（２） サービスの継続性に配慮した対応が行われている。	① 転園・卒園にあたり保育の継続性に配慮した対応を行っている。	A	A

[自由記述欄]

- ・利用者のプライバシー保護に関する規程を整備し、職員にも周知しています。
- ・苦情対応マニュアルを整備し、苦情処理委員会を設置しています。その体制については入園のしおりやホームページなどで利用者に周知しています。苦情の受け付けについては、日常の保護者の要望などについても報告書に細かく記録し、フィードバックを徹底しています。
- ・定期的に第三者評価を受診しており、事前に園内にサービス評価委員会を設置し、職員の参画のもと自己評価に取り組み、年に１回自己評価を行っています。今後、評価結果の分析や検討が行われるとなお良いでしょう。
- ・子どもの身体状況や発達過程を個別記録に記録しており、入園時は定められた手順に従ってアセスメントが行われ、保育内容、給食内容（量、質、調理方法）など、一人ひとりに応じた配慮に努めています。
- ・利用者に関する記録については保育士の心得や職員処務規定を整備し、適切な管理に努めています。
- ・毎日昼のミーティングや月例研修などを通じて利用者の情報共有に努めています。
- ・パンフレットの配布やホームページを活用し、利用者への情報提供に努めています。
- ・毎月の保育記録として「おしらせひょう」を作成しており、転園などの場合はそれまでの記録を引継ぎとして送付しています。

IV-1 子どもの発達援助

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
IV-1 子どもの発達援助	IV-1-(1) 健康管理・食事	① 登所時や保育中の子どもの健康管理は、マニュアルなどがあり、子ども一人ひとりの健康状態に応じて実施している	A	A
		② 健康診断の結果について、保護者や職員に伝達し、それを保育に反映させている	B	A
		③ 歯科健診の結果について、保護者や職員に伝達し、それを保育に反映させている	B	A
		④ 感染症発生時に対応できるマニュアルがあり、発生状況を保護者、全職員に通知している	A	A
		⑤ 食事を楽しむことができる工夫をしている	A	A
		⑥ 子どもの喫食状況を把握するなどして、献立の作成・調理の工夫に活かしている	A	A
		⑦ 子どもの食生活を充実させるために、家庭と連携している	B	A
		⑧ アレルギー疾患をもつ子どもに対し、専門医からの指示を得て、適切な対応を行なっている	A	A
	IV-1-(2) 保育環境	① 子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している	A	A
		② 生活の場に相応しい環境とする取り組みを行なっている	B	A
	IV-1-(3) 保育内容	① 子ども一人ひとりへの理解を深め、受容しようと努めている	A	A
		② 基本的な生活習慣や生理現象に関しては、一人ひとりの子どもの状況に応じて対応している	A	A
		③ 子どもが自発的に活動できる環境が整備されている	B	A
		④ 身近な自然や社会とかがわれるような取り組みがなされている	A	A
		⑤ さまざまな表現活動が自由に体験できるように配慮されている	B	A
		⑥ 遊びや生活を通して人間関係が育つよう配慮している	A	A
		⑦ 子どもの人権に十分配慮するとともに、文化の違いを認め、互いに尊重する心を育てよう配慮している	B	A
		⑧ 性差への先入観による固定的な観念や役割分業意識を植え付けないよう配慮している	A	A
		⑨ 乳児保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮がみられる	B	A
		⑩ 長時間にわたる保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮がみられる	A	A
		⑪ 障害児保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮が見られる	B	A

【自由記述欄】

- ・健康診断、歯科健診の結果は、全職員に伝え情報を共有し、細やかな健康管理をに努めています。
- ・食材の産地を献立表に記載したり、試食会を実施したり、安全性に留意しながら家庭との連携を取っています。
- ・遊びの場と眠る場は一緒ですが、各部屋の中で活動に応じた空間を工夫し用意しています。
- ・幼児室にはコーナーが、乳児室には玩具や絵本などがあり、子どもが主体的、自発的に活動できる環境を整備しています。
- ・器楽発表会への取り組みでは、子どもの興味関心、発達に即した様々な楽器に親しむ工夫をしています。
- ・子どもに係る人権研修に積極的に参加し、保護者参加の研修会もあり、一人ひとりの子どもを理解し、受容しようと努めています。
- ・SIDS予防として、0～3歳児の午睡の様子を10分毎に確認するとともに、記録をとっています。
- ・NPO法人等が主催する発達支援に関する勉強会の案内を保護者に配布しています。また、4歳児モデル事業で、4歳児の発達検査を行い、保育所職員が保健センター、保護者と連携し保育に取り組んでいます。



評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
Ⅳ－２ 子育て支援	Ⅳ－２－（１） 入所児童の保護者の育児支援	① 一人ひとりの保護者と日常的な情報交換に加え、個別面談などを行っている	A	A
		② 家庭の状況や保護者との情報交換の内容が必要に応じて記録されている	A	A
		③ 子どもの発達や育児などについて、懇談会などの話し合いの場に加えて、保護者と共通理解を得るための機会を設けている	B	A
		④ 虐待を受けていると疑われる子どもの早期発見に努め、得られた情報が速やかに所長まで届く体制になっている	A	A
		⑤ 虐待を受けていると疑われる子どもの保護者への対応について、児童相談所などの関係機関に照会、通告を行う体制が整っている	A	A
		⑥ 子どもの発達記録やケア記録、保育要録など保育に必要な記録が整備され、保育内容（指導計画）や小学校など専門機関との連携に活かされている。	A	A
	Ⅳ－２－（２）一時保育	① 一時保育は、一人ひとりの子どもの心身の状態を考慮し、通常保育との関連を配慮しながら行っている	A	A

[自由記述欄]				
・連絡帳、年２回の個別懇談、クラス懇談、送迎の際に情報交換を行うなど、保護者とのコミュニケーションを積極的に行っています。保護者参加型の保育参観を行い、親子での運動遊びなどを通して、保護者との共通理解を得る取り組みを行っています。 ・虐待対応マニュアルを整備しています。職員に対しての研修を行い、朝の健康観察やおむつ交換、着替え時などには子どもの身体状況に気を配るようにしています。 ・一時保育については、保育園に慣れるまでは１対１の対応を行ったり、同年齢のクラスとの関わりを大切にしたりと様々な工夫をしています。記録について保育業務支援ソフトでパソコンを活用し、一人ひとりの子どもの状況を把握しています。				

Ⅳ－３ 安全・事故防止

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
Ⅳ－３ 安全・事故防止	（１）安全・事故防止	① 調理場、水周りなどの衛生管理は、マニュアルに基づいて適切に実施されている	A	A
		② 食中毒の発生時に対応できるマニュアルがあり、さらにその対応方法については、全職員にも周知されている	B	A
		③ 事故防止のためのチェックリスト等があり、事故防止に向けた具体的な取り組みを行っている	A	A
		④ 事故や災害の発生時に対応できるマニュアルがあり、全職員に周知されている	A	A
		⑤ 不審者の侵入時などに対応できるマニュアルがあり、全職員に周知されている	A	A

[自由記述欄]				
・衛生管理マニュアルや食中毒防止マニュアルを整備し、献立会議で調理場等の衛生管理について話し合っています。 ・遊具点検を定期的に行い、ヒヤリハットマップを作成し、事故防止に努めています。 ・事故や災害時のマニュアルを整備し、様々な状況に応じた避難訓練を行っています。 ・不審者の対応マニュアルを整備し、朝夕は職員が門に立つなど、安全管理に努めています。				